

季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌



美野里短歌クラブ

沢山のランタン空に上りゆく願いを乗せて淡く光りぬ
車窓には北浦に沈む太陽が水面を染め輝きており
陽だまりの庭で芝つく鳥一羽キョロキョロしつつまた芝をつく
ほのかにも梅花ただよう千波湖畔 白鳥のむれ夕波に映ゆ
懐かしく小学時代を思い出す娘の買きたる肝油ドロップ

小川短歌会

牡丹の花ながめつつ道の辺に人ら憩いて話がはずむ
ヨガのあとからだすつきり腹も減り肉まん三こペロリ完食
枕二つ並べて夜具を敷き終えり家事せぬ私のつとめの一つ
西日うけソーラーパネルの光りおり杉の林は切り開かれて
雨寒く歌会の送迎するからと友の電話のただありがとう

玉里短歌会

平成に生まれし孫は要四郎祖父の名前を武士かとたずぬ
朝まだき午前六時の鐘聞こえ裏の林に小綬鶏が鳴く
花好きの姉の忌明けの法要日読経の最中桜舞い来る
常々はやんちゃの男の子学生服着れば凜々しき中学生なり
男等が杉の大木切り倒す胸高鳴らせ息つめており

鶴	野	松	齋	正	根	中	佐	小	石	白	破	宇	菱	菱
町	口	田	藤	木	本	根	藤	川	田	根	谷	都	沼	沼
文	初	通	かつ	敦	智	良	正	ヒ	は	清	き	和	友	清
男	江	喜	み	子	恵	子	正	口	る	香	え	子	江	子

みづうみ俳句会

校庭の桜吹雪にはしゃぐ子ら
花吹雪追いかけて園児歓喜あげ
路をむく指の先まで匂ひけり
母の日に贈る言葉は「元気でね」
淋しさも強さもありし八十路かな

みのり俳句会

手庇の中に納めし春の山
満開の花のトンネル母白寿
廃校と知らず桜満開に
青菜茹で香り広がる厨かな
遠く来て娘と見るや雛流し

櫛の会

今一度地へ満開の散りつつじ
村一つ墨絵のように春の雨
喉に骨ゴルデンウィークの渋滞
薔薇白し明日は晴れるそうだから
考えることは明日に花菜畑

くるみ俳句会

日差し受け庭の草取る母の影
山の端の稜線遙か田水沸く
瀬戸の海飛び散る飛沫鯛網漁
野歩きの後先蛙の音
柔らかに光る若葉の並木道

たまり俳句会

昭和の日企業戦士の老に入る
道の辺の風に漂ひ野茨の香
突然の風神雷神夏来たる
輝いて陽を返しをり柿若葉
河童の忌父の書棚の片隅に

小美玉川柳会

年金日納めし頃の文句詫び
脱マスクあなた誰です僕ですよ
葉桜が枝葉を広げ空を抱く
やり残さないかこっちを見てる犬
コロナ明け歓喜の声の行楽地

大	下	原	梶	信	小	大	れ	矢	松	堀	福	城	島	信	木	岡	網	井	石	立	白	島	佐	友	長	長	榎	長	三
盛	重	山	田	正	玉	石	も	口	田	内	内	垣	田	田	村	島	代	坂	田	原	根	田	藤	水	島	島	本	島	村
食	悟	富	正	平	知	康	子	友	通	い	邦	睦	篁	菊	小	禮	奈	あ	敏	千	清	草	清	清	久	喜	さ	れ	
堂	史	貴	平	男	子	子	ん	子	喜	づ	み	子	子	女	夜	津	江	江	江	代	香	心	子	子	美	代	昭	か	い